

閑話休題

かなり昔ですが、朝日新聞のコラムのタイトルに「閑話休題」が使われていたのをご記憶の方もいるかと思います。ブログなどでも、本題から逸れて「無駄話でひとやすみ」のような意味合いで良く使われているのを見かけるので、ずっとそういう意味だとばかり思い込んでいた。調べて見ると、その正しい意味は閑話（＝無駄話）を休題（＝話をやめること、話を転じること）で、話の本筋に戻ることであり、本題に関係のない話をして一息つくことではないらしい。

「閑話休題」は滅多に使わないかもしれないが、日頃よく使っている言葉の中にも、間違った使い方をしてるものや意味を取り違えたりしているものは意外と多い。たとえば、居酒屋などで会計のときに「おあいそ（愛想）お願いします」などと言ったりするが、この言葉は本来、お店側が「お愛想が無くて申し訳ありません。」などと言いながら、勘定を出すときにへりくだって使われていた言葉であって、お客が言うと「こんな店には愛想が尽きたから精算してくれ」という意味になり、失礼になってしまうので、「お会計」「お勘定」などを使うのが無難なようです。

また、「うがった見方」という言葉を、「疑ってかかるような見方」、「片寄ったものの見方」などネガティブなイメージの言葉という風に誤解している方が多いのではないのでしょうか。「うがった」は「穿つ」から来ていて「穴を掘る」という意味が転じて「物事を深く掘り下げた見方」、「本質を突いた見方」というのが本来の意味です。（文化庁調べでは、約2人に1人が誤解）

言葉は時代とともに変わると言いますが、研究をしていく上で、「穿った見方」のその本来の意味を忘れずに大切にしていきたいものです。

（水環境保全チーム 上席研究員 新目 竜一）

* * * *

表紙左上記号 ISSN 2432-2652の説明

国際的なコード番号である ISSN (International Standard Serial Number : 国際標準逐次刊行物番号)は、ISSN ネットワークが管理する、逐次刊行物を識別するための固有の番号です。この番号は国立国会図書館 ISSN 日本センターから付与されたものです。